



# いぼり

北九州市立井堀小学校  
〒803-0835  
小倉北区井堀三丁目15番1号  
Tel 561-5276  
文責：校長 手島 寿則

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

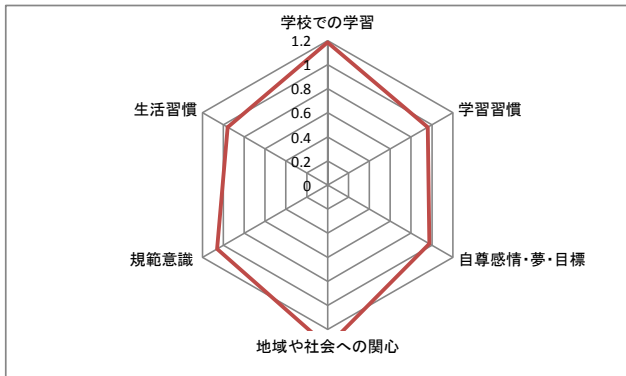
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> <li>長文問題文になると、文章の読み取りに抵抗がある。</li> <li>問題文から、必要な情報を取り出して、問いに即して記述する問題で時間の不足が見られた。</li> <li>漢字は書くことはできるが、文の中で正しく使うというような二段階の問いになると意欲が失われている。</li> </ul>	やや下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えと相手の考えを比べたり、目的に応じて自分の考えを明確にして表現したりするような記述式の問題では、無解答や字数内に書き表すことに抵抗が見られた。</li> </ul>	やや下回っている
算数A	<ul style="list-style-type: none"> <li>長文の問題文に抵抗感があり、読解することが難しかった。</li> <li>四則計算はできるが、意味理解が十分でないために解答が難しい。</li> </ul>	やや下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> <li>式や言葉を使って理由を説明する記述式の問題に対しては、無解答が見られた。</li> <li>問題文だけでは理解ができず、絵・図等の手がかりがあると意欲的に取り組む姿勢が見られた。</li> </ul>	下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題の解答形式では、選択式・短答式・記述式があったが、選択式はすぐに解答することができたが、記述式では答え方がわからず無解答が見られた。</li> <li>知識は北九州市の平均的な理解であった。活用力において課題が見られた。</li> </ul>	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習中は、話合う活動に対しては意欲的であるが、書いたりまとめたりする学習には消極的である。</li> <li>学校のきまりを守ろうとする意識が高い。地域・社会への関心や関わりについても高い。</li> <li>学校からの宿題については、ほぼ全員が行っている。宿題をする習慣はほぼ定着していると思われる。しかし、家庭での学習時間を見ると30分程度であることから、宿題以外の学習をしていない状況が考えられる。</li> </ul>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 学力向上推進教員をさらに有効に活用するとともに、二学期に全クラスで授業研究会を行い、全職員で授業改善の取組を進める。
- 一単位時間の学習の中で「話合う」活動および「書く」活動を取り入れ、説明したり、文章で表現したりする力を伸ばす。
- 高学年では、算数の授業で少人数学習を推進する。朝の学習タイムに複数の教員を配置し、補充学習を行う。
- 一単位時間の45分を大切に、やり残したことはその日のうちに指導する。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学校通信・学級学年通信・保健だより等を通して、基本的な生活習慣の定着についての啓発を継続する。
- 親子講演会等を実施し、生活習慣について見なおす機会をつくる。
- 「学年×10分+10分の家庭学習」を目標にして、家庭学習の習慣を図る。家庭学習の仕方を各学年の実態に応じて指導する。